

日本平滑筋学会ニュースレター No 1

◎学会ニュースレター創刊にあたって 理事長 佐々木 巖

本学会は本年7月に記念すべき第50回総会を迎えることができました。理事会では学会活動の情報の迅速な周知により一層の発展を目的とし、学会ニュースレターを定期的に発行することになりました。本学会は長い歴史の中で平滑筋に関する研究追求するという使命を基礎から臨床まで幅広い領域で展開する世界でも専門性が高いユニークな学会となっています。平滑筋研究における夫々の専門性追求はその成果を全体として反映させることによって、より高度の医学・医療に結びつけて社会貢献を果たすことが可能となります。今後は専門化への道を個々の研究者が究めると同時に互いにコラボレーションを密接に計ることにより新たな学問の芽生えやこれまでに無い新しい社会貢献が展開されるものと期待されます。現在、本学会が直面する財政面や会員減少など幾つかの課題の克服には、会員が本学会の長所をバネに知恵を出し合い一丸となって取り組むことが必要であります。巨大な学会ではなくとも、若い人が専門性に興味を抱き「入りたい」「入ってよかった」という学会、常に新しい課題にチャレンジして発展を目指す学会であり続けることを期待いたします。下記の事務局メールアドレスまで会員皆様のご意見をお寄せ下さい。

◎第51回日本平滑筋学会総会の御案内

「51年目の原点回帰」を主テーマとして、第51回日本平滑筋学会総会を下記のように名古屋市において開催いたします。平滑筋研究に興味をお持ちの方々のご参加をお待ちいたします。

期日：平成21年(2009)7月21日(火)～23日(木)

場所：名古屋国際会議場

予定行事：栗山照賞受賞講演(3名) 特別講演：Sushil K. Sarna教授
(The University of Texas Medical Branch, Galveston, USA) 「Gene plasticity underlies smooth muscle dysfunction in motility disorders: cellular mechanisms to gene therapy」

一般口演：一般口演の演題を公募いたします。演者は日本平滑筋学会会員に限定されております。非会員の方は演題応募時に入会の手続きをおとりください。(入会様式は日本平滑筋学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/jsmr/>)あるいは日本平滑筋学会雑誌の綴込から入手できます)。公募要領は日本平滑筋学会ホームページで御確認ください。尚、本総会は全て一般口演のみで、シンポジウム、ワークショップは計画しておりません。

事務局：名古屋瑞穂区瑞穂町川澄1 (郵便番号467-8601)

名古屋市立大学大学院医学研究科細胞生理学教室

電話：052-853-8131 FAX：052-842-1538

E-mail：smr2009@med.nagoya-cu.ac.jp

尚、第51回日本平滑筋学会総会に引き続き、同じ会場において、平滑筋に関する国際シンポジウム「Postgenomic Advances in Smooth Muscle Physiology」を3日間(7月23日～25日)にわたり開催いたします。平滑筋研究の最前線の情報が得られる好機かと思っておりますので、御参加下さいませよう併せて御案内申し上げます。

第51回日本平滑筋学会総会会長 鈴木 光

第50回日本平滑筋学会総会理事会議事報告

日 時：平成20年7月2日(水) 午後2時～4時

場 所：弘前市 ホテルニューキャッスル(2F サファイア)

1. 庶務報告

1) 会員構成：個人会員数 456名(基礎40%、臨床55%、その他5%)、新入会者数 25名(基礎19名、臨床5名、その他1名)、退会者数 34名(基礎17名、臨床14名、その他3名)、図書館会員数 58団体

2) 第49回総会参加者数 207名

3) 学会雑誌発行：・JOURNAL OF SMOOTH MUSCLE RESEARCH第43巻第1号～第2号・日本平滑筋学会雑誌 第11巻第1号～第3号

4) 会費納入者数：平成19年度分納入済 305名(64.4%) 平成18年度分納入済 31名(7.6%) 平成17年度分納入済 13名(3.2%) 他

2. 平成19年度決算報告、平成20年度予算案作成決算、予算案ともに承認された。

3. J. Smooth Muscle Res.編集委員会報告(編集委員会議事録参照)

4. 平成19年度ベストダウンロード賞報告(編集委員会議事録参照)

5. 「栗山 照 賞」について。1) 平成20年度受賞者選考結果：勝井鍊太氏(奈良県立医科大学)、田中俊昭氏(川崎医科大学)、Kim Hee Sun氏(韓国)の3名を受賞者と決定した旨、本郷選考委員長より報告があり承認された。2) 選考委員について：今回の選考をもつて、全選考委員が任期満了となることに伴い、新選考委員長および新選考委員の推薦、選挙が行われ理事による投票の結果、平成21～22年度選考委員長に鈴木光氏、選考委員として、尾崎博氏、鎌田勝雄氏、高木都氏が選出された。

6. 新役員選出：1) 名誉会員に杉山讓氏、百瀬和享氏が推薦され承認された。

2) 第51回総会会長の承認：次期会長鈴木光氏(名古屋市立大学教授)第51回日本平滑筋学会総会を平成21年7月21日～23日、名古屋国際会議場で開催する予定。

3) 新評議員の選出：飯野 哲氏(福井大学) 井上隆司氏(福岡大学) 瓜田純久氏(東邦大学) 小室輝昌氏(早稲田大学) 橋谷 光氏(名古屋市立大学)。

4) 第51回総会副会長選挙：評議員の推薦を受けた5名の中から評議員会で投票により以下の副会長を選出。佐々木巖氏(東北大学大学院医学系研究科生体調節外科学分野) 5) 新理事の選出：百瀬和享氏の定年により、6名の候補者の中から投票により以下の新理事を選出。高木都氏(奈良県立医科大学生理学第二講座)、6) 新監事の選出：監事欠員により、6名の候補者の中から投票により以下の1新監事を選出。尾崎博氏(東京大学大学院農学生命科学研究科獣医療薬理学教室)

7. 学会中期計画について：佐々木巖理事長より「元気の出る平滑筋学会」づくりを実現するため、以下の提案がされ、承認された。1) ニュースレターの発行：年2回(春・秋)発行予定、学会報告や平滑筋研究に関するトピックなどを掲載。2) 学会賞設置：学会雑誌投稿論文、総会発表論文から学会賞を、またベストダウンロード賞についていずれも賞金を授与する。その詳細(選考方法、採用論文数、賞金等)については、学会賞準備委員会を設け、検討することとした。3) 各委員会の整備：庶務委員会(学会の企画等を検討)委員長：森田隆氏、財務委員会(経費の用途、会費納入率改善方法を検討)委員長：春間賢氏、広報委員会 委員長：高木都氏、あり方委員会(会則等検討)委員長：今泉祐治氏、瓦林達比古氏、学会賞準備委員会(各賞詳細を今年12月までに決定し、次回総会から実施)委員長：本郷道夫氏

8. 事務局の変更：平成20年7月5日より、

東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座生体調節外科。

事務局担当者：柴田 近(事務局長)、秋田 恵音。

住所：〒980-8574仙台市青葉区星陵町1-1、

電話：022-717-7205 FAX：022-717-7209

日本平滑筋学会会員の皆様へ：広報委員会の設置

日本平滑筋学会広報委員長 高木 都 (奈良県立医科大学)

第50回日本平滑筋学会総会理事会で広報委員会を置くことが決まり、理事になったばかりの私が広報委員会の委員長を仰せつかりました。広報委員会の仕事は、学会会員に向けての広報活動と共に、学会の外に向けての広報活動が主要な活動ということができるとは思いませんか？そしてそのゴールは、平滑筋学会の質と量を高めることではないでしょうか？すなわち、平滑筋学会としての活動を活発に行い、その専門性を高め、魅力を増して、多くの会員を学会に迎えることでしよう。会員の皆様のご意見を聞きながらこれらのことに積極的に取り組んでいきたいと思っています。そのために現段階で以下の3つの提案を検討しています。

(1) 会員のメーリングリストを整備し、様々な情報を日常的に流す。

(2) ホームページの充実を図る。

(3) ニュースレターを年2回程度発行する。

広報委員会委員は現在3名の先生にお願いしていますので、委員長の私を入れて4名の陣容で対応したいと思っています。メーリングリストが整備されれば、一方的に情報を流すのみならず、会員相互の情報交換も活発にできるようになると思います。ホームページを充実させ、沢山の皆さまにアクセスして頂き、平滑筋研究に興味を持って頂き、学会に入会して頂ければ最高です。ニュースレターはより会員向けに質の高い情報を提供する。そして、会員の周囲の方々にも広まっていけば理想的だと思います。どうぞよろしく。

▶会員メーリングリスト作成へのご協力を！ :事務局メールアドレスを開設

会員の方のメーリングリストを整備いたします。ご都合が悪い方以外の方はmail addressを事務局まで氏名、ご所属添えてE-mailでご連絡下さい。事務局：日本平滑筋学会 <jsmr-adm@umin.ac.jp>

➡ **第50回日本平滑筋学会総会を終えて**
弘前大学保健管理センター 佐々木大輔

会員の皆様方のご支援、ご協力をいただきまして、第50回日本平滑筋学会総会を無事、終了することができました。学会は洞爺湖サミットの直前でありましたし、学会終了後には地震があったりしました。幸い、学会期間中は雨模様のこともありましたが、大きな問題はありませんでした。学会運営には何かと不行き届きの点も多々ありましたでしょうがご容赦願いたく存じます。今回、記念すべきは50回記念講演を行ったことでもあります。今 充・唐木英明、両先生のご司会で、伊藤 漸先生、砂野 哲先生、富田忠雄先生、岡本英三先生、白鳥常男先生、田中 隆先生からお話を伺えました(下記写真参照：この内容は後で本学会誌に掲載予定です)。ご講演の時間が少なく、またお話頂きたかった先生は他にもおられましたが、この点につきましてもご容赦願います。



佐々木大輔会長

第50回総会
弘前市 2008.7.2-4



50周年記念講演「50年の歴史から学ぶ」の先生方



シンポジウム1 消化器機能評価法の風景

第36回国際生理学学会大会 (IUPS2009) のご案内
演題募集・参加登録 を開始しました!!

演題応募登録 開始 平成20年9月1日(月) 9:00
締切 平成20年12月10日(水) 12:00
参加事前登録(早期)開始 平成20年9月1日(月) 9:00
締切 平成21年4月17日(火) 12:00

第36回国際生理学学会大会 (The 36th International Congress of Physiological Sciences) が、貴学会の協賛も得て、2009年7月27日(月)–8月1日(土)京都国際会館にて開催されます。いよいよ上記の通り、演題募集が開始されます。参加登録・演題登録は全て大会ホームページ (<http://www.iups2009.com/>) からオンラインで行えます。左端のメニューから、演題登録には"Call for Abstracts"を、参加登録には"Registration"をクリックしてください。

国際生理学学会世界大会は4年に一度開催される生理科学分野のもっとも歴史のある学術集会です。実に44年ぶりの日本開催となります。第36回世界大会となる京都大会のメインテーマは「Function of Life: Elements and Integration」です。狭義の生理学に限ることなく、広く生命要素とその統合機構から機能生命科学を考えることを主題としています。

本大会では、特別講演28、シンポジウム55、全日シンポジウム16をはじめとする学術プログラムに加え、世界中からの招待講演者と語り合う交流会 Meet-the-Lecturer など生理科学の最先端を担う研究者達の交流をめざしています(詳細は、上記大会ホームページを御覧ください)。生命科学の最先端を知り、今後の展望を考える場となる機会を提供いたします。大会の充実と成功のために、広く生命科学関連の種々の学会に所属される数多くの研究者のご参加と、ご発表の登録をお待ちしております。

なお、大会参加費は文部科学省の科学研究費補助金などにより支出することができます。詳細は所属機関の事務担当者にお尋ねください。また、大会に関する質問・提案等は、大会事務局 (iups2009@iups2009.com) までお問い合わせ下さい。第36回国際生理学学会大会 (IUPS2009) <http://www.iups2009.com/>

会長	宮下保司 (東京大学医学部)
総務委員長	岡田泰伸 (自然科学研究機構生理学研究所)
プログラム委員長	倉智嘉久 (大阪大学医学部)
財務委員長	栗原敏 (東京慈恵会医科大学)

○ 診療のトピックス

膀胱平滑筋と加齢

熊本大学大学院医学薬学研究部泌尿器病態学分野 吉田 正貴

加齢に伴う下部尿路の変化には、前立腺肥大症などによる閉塞、排尿筋の収縮不全（低活動膀胱）、さらには過活動膀胱（OAB）が重複して存在していると考えられ、加齢膀胱の最終的な臨床像はDHIC（Detrusor hyperactivity with impaired contraction）であろうとされている。

加齢に伴う膀胱の組織学的変化としては、平滑筋線維間や筋束周囲のコラーゲンの増加がみられ、我々のヒト膀胱標本を用いた検討結果でも、加齢とともに平滑筋の占める割合は減少し、年齢との間に有意の負の相関関係が認められた。

加齢に伴う神経学的変化について、我々は摘出ヒト膀胱平滑筋を用いて検討した。膀胱平滑筋収縮のコリンおよびプリン作動性成分のうち、コリン作動性成分は加齢に伴い減少し、年齢との間に負の相関が認められ、逆にプリン作動性成分は加齢に伴い増加し、年齢との間に正の相関が認められた。また、HPLCとマイクロダイアリス法により測定したアセチルコリン（ACh）とATP放出量の測定では、ACh放出量は年齢との間に負の相関が、ATP放出量は年齢との間に正の相関が認められた。コリン作動性成分は膀胱の持続性収縮に関与し、この成分の減少は低活動膀胱と関係している可能性が考えられる。またプリン作動性成分は膀胱収縮の開始と関係しており、この成分の増加は膀胱収縮を誘発し、OABの一因となる可能性が推察される。

最近、尿路上皮の役割が注目されるようになり、膀胱上皮は局所の化学的刺激や伸展刺激に反応して化学物質（ATP、プロスタグランジン、nitric oxideやAChなど）を放出していることが明らかとなってきた（図1）。これらの物質は膀胱上皮下に存在する知覚神経終末や間質細胞を刺激することで、知覚求心路（C線維）に対して興奮性あるいは抑制性の反応を引き起こす。我々の検討から膀胱上皮から非神経性ATPが放出されること、また膀胱上皮には非神経性コリン作動系が存在し、非神経性AChも膀胱上皮から放出されることが明らかになった。この非神経性ATPやAChは加齢や膀胱の伸展に伴い増加し、高齢者でのOABの発生に関与している可能性が示唆される。

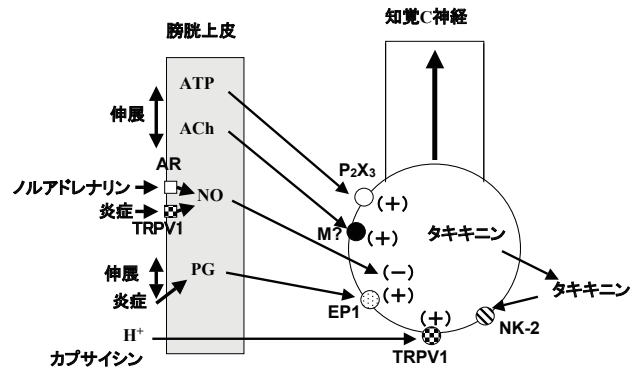


図1 膀胱上皮より放出される因子と知覚神経の受容体

ATP: アデニン3燐酸、ACh: アセチルコリン、NO: 一酸化窒素、AR: アドレナリン受容体、TRPV1: パニロイド受容体1、PG: プロスタグランジン、NK: ニューロキニン、M: ムスカリン受容体

日本平滑筋学会へ入会のお勧め

日本平滑筋学会は日本医学会の所属学会としてこれまで様々な方面で活動しております。特に平滑筋に関わる基礎・臨床研究の交流ができる希有な学会であり、会員は循環器、消化器、泌尿器、婦人科、生理学、薬理学をはじめ各分野から幅広く加入しております。機関誌は年9回発行され、特に英文誌JOURNAL OF SMOOTH MUSCLE RESEARCHには韓国をはじめとして国外研究者から投稿が増えております。本学会は専門性の高い領域を扱っておりますが、最近では本誌論文が他誌論文に引用される機会も多く、国際学術誌として高い関心を集めております。これからこの領域に関心のある若くて積極的な先生には是非入会をお勧めします。

◎インパクトファクターの功罪: JSMRの“IF相当値”は3前後

日本平滑筋学会雑誌編集委員長 鈴木 光

Journal of Smooth Muscle Research (JSMR)に投稿される論文数が少ないのは本誌の慢性的な症状ようになってしまいましたが、その主な原因はImpact Factor (IF) の導入にあると思っています。IFは、過去2年間にある雑誌に発表された論文が、その2年間に何回引用されたかを表すもので、したがって引用数を論文数で割り算しただけのものです。多くの論文は、重要な内容を含んでいられるほど、長い間引用され続けます。従って、IFの計算に用いる引用数が2年間に限定されているということは、IFが高い論文は時流に乗った研究内容である、という意味合いを強く持っていると思います。つまり、IFは、その時代の研究者たちが関心を持っている研究内容を多く発表している雑誌の指標として意味があると思います。しかし、IFが、その雑誌に掲載された論文の価値を表す指標でないことは御理解いただけるとと思います。しかるに、多くの研究者はIFの高低を、その論文の科学的価値や研究レベルの優劣として評価対象にしようとする傾向があります。研究者だけでなく、大学の運営や人事にまでIFを重用します。こうした、IFの誤った用いられ方が科学の世界をゆがめているように思います。皆、研究成果を発表するのに少しでもIFの高い雑誌を選ぼうとします。まして、IFの無い雑誌は、掲載されている論文自体が低く評価され、あるいはそれを恐れて、そのような雑誌は敬遠され、論文を投稿しない傾向にあります。まさにJSMRの現状がそれではないかと思えます。

IFはISI社が編集しているCurrent Contentsに掲載された論文について導入されたものであり、従ってCurrent Contentsに掲載されていない雑誌にはIFがないこととなります。しかし、最近ではPubMedを代表とするような多くのデータベースが作られ、研究分野別や、あるいは特別に限定された範囲における雑誌のIFに相当する値が計算されています(IFはCurrent Contentsに掲載された雑誌についてのみ適用されます)。JSMRもJ-Stageを介してPubMedにも掲載されており、新しい雑誌が刊行されるたびに平滑筋学会の会員数より多いダウンロード回数があります。したがって、関心ある研究者はJSMRに掲載された論文を読める環境にありますので、実質的には論文がCurrent Contentsに掲載されなくてもIFに相当するような評価をすることは可能で、現にいくつかのデータベースではこうした試みがなされています。そうしたデータベースにおけるJSMRの最近のIF相当値は3前後で、次第に高くなってきております。

しかし、そもそも研究に上下があるという考えは馴染まず、さらにその論文の研究内容が多く引用されただけで、良い研究あるいは優れた研究であると評価することは間違っているのではないかと思います。上述のように、IFは掲載された論文が一定期間中に引用された回数であり、IFの高い雑誌に掲載された論文は多くの研究者の注意を引きやすいとは言えるでしょうが、すべてが優れた論文であるという評価は出来ないと考えます。

それぞれの事情もあるでしょうから、会員の先生方にJSMRへの御投稿を強くは申し上げにくいのですが、JSMRを盛り立てていくことが、我が国の平滑筋研究のレベルアップにつながると思います。IFの高低などに惑わされずに、論文の内容に相応しい雑誌を自由に選んで投稿していただきたいと願っております。

本学会へ入会ご希望の方は
以下の用紙を拡大コピーして
ご利用下さい

◎ 平成20年度から新たな学会賞を設定
会誌への投稿も期待

FAX 022-717-7209

郵便番号 980-8574

日本平滑筋学会事務局 行 仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学病院胃腸外科

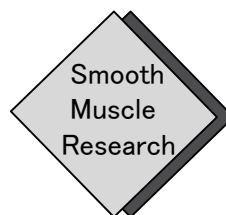
日本平滑筋学会 入会申込書

平成20年度からの論文発表、第51回総会研究発表を対象として学会賞を設定することとし、従来のベストダウンロード賞も合わせて賞金を授与して表彰することとなりました。平成21年度の学会発表が早速対象となりますので、本学会への入会と学会での積極的な研究発表および投稿を多数募集致します。なお、募集内容は委員会にて検討中です。詳細については今後HPをご覧ください。

日本平滑筋学会事務局移転に伴い、入会申し込み書の書式も変更になりました。詳細は本ホームページの「入会希望の方」をご覧ください。アドレスは下記のとおりです。

http://www.jssmr.jp/official/pg_visitor/candidate.html

連絡先	1. 所属	2. 現住所	※連絡先(送付先)をご指定下さい
■所属情報■ ※ 略さず、正確にご記入下さい			
名称	(職名)		
所在地			
Tel:	FAX:		
E-mail:			
■現住所(自宅)情報■			
現住所			
Tel:	FAX:		
E-mail:			
■専門情報■			
最終学歴	(西暦) 年 卒業 / 修了		
学位			
専門分野	A 基礎 B 臨床 C その他 Hメーカー勤務 (該当するものに○を付けて下さい)		
備考			
日本平滑筋学会に入会希望者はこの用紙にて事務局宛 FAX または郵送により申し出てください。			



発行所: 日本平滑筋学会事務局
〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1
東北大学病院胃腸外科内
TEL:022-717-7205
FAX:022-717-7209
印刷: 笹氣出版印刷株式会社